愛路作業

河村協

一　緒言

およそ人類の存立は土地に依存する。生産と言はず、消費と言はず物的にも心的にも大地は人類の母である。從つて土木事業は國土に對する根本的施設であつて、人類生活とは全く不可分の關係にあり、人類の生存するところには必ず土木施設がある。五千年の昔エヂプトのピラミツト、二千有餘年前、秦の始皇帝の築造と謂はれてゐる有名な彼の萬里の長城、蜿蜒實に二千四百粁も有すると謂はれてゐる眞に驚くべき尨大な土木工事の如く、人類の歷史を物語る多くのものがある。

從つて我國の過去を顧るに、神武天皇が、天業を創め給ふに際しての詔に、……地を大和の橿原に卜して大いに土木を興し天宮命を以て役を董さしめ云々……とあるのを見ても、我國開闢の始めから、土木事業が國家建設の上に離るべからざる關係にあつたことが知られるのである。

斯くの如く人類生活と土木施設とは密接不離の關係を有するに因り、一朝戰時ともなれば愈ゝ其の重要性を發揮する特に近代戰に於て著しいのである。即ち『軍隊對軍隊の戰爭』は最早歷史上の遺物であつて、近代の戰爭は國家の總力戰であるからである。武力戰であると共に經濟戰であり又産業戰である。從つて科學戰であり技術戰であると謂ひ得るのである。

就中、交通土木の重要性は著しい。即ち、軍隊の移動、軍需資材の輸送等は言ふまでもなく、工場への材料蒐集及び其の搬出並びに工場相互間の連絡、生産地と搬出港、或ひは消費地との連絡又生産地相互間の連絡等、生産力の擴充も、國防の充實も、或ひは物動計畫の實施、國民生活必需品の配給も、凡ゆる物資は圓滑なる輸送に俟たなければならない。而して道路運輸の價値は、主

として其の路面の性質に基因して定まるものであるから、道路維持の緊要なること愈〻重大なりと言はなければならぬ。

然るに道路は純然たる公共的施設であつて、空氣や水と同樣にあまりに、日常其の恩澤に浴し過ぎてゐるためか、直接一般公衆の關心の圈外に置かれ、從つて其の恩惠を感じ其の價値を認めてゐる者は極めて僅少であると考へられる。尙假令其の重要性を感じてゐる者に在りても、公共的施設に對する愛護の觀念は一向認められないのである。

由來我國民は、忠孝兩道にかけては實に世界無比であるにも拘らず、社會公德心に至りては大いに愧づべき點があり、殊に河川道路等の公共物に對して一層其の感が深いのである。

茲に於て筆者は、先づ自ら範を示すべきが當然であり關心を喚起せしむる捷徑であると考へ、九月八日の大詔奉戴日と、九月十四日の兩日に愛路作業を實施したのである。

二　愛路作業

先づ九月八日の大詔奉戴日に、土木課本所員一同（派出所員は其の各駐在町村に於て實施す）、府縣道日野水口線中甲賀郡水口町大字水口地內（水口驛附近）の愛路作業を行つたのである。該線及び水口長野線は、從來栗石が萬遍なく露出してゐて、通行の不快が多かつたため、筆者着任以來、極力其の摘出を勵行し、殘る水口驛附近は、栗石の露出に加へ、必要以上の橫斷勾配を有してゐたため、尙更通行の圓滑を缺きつゝあつたのである。

茲に於て各自、鳥口持つ手に鶴嘴を握り堅い地盤を掘り起し、栗石の摘去と橫斷勾配の緩和を實施したのである。

土木課員ふ振を嘴鶴

次で九月十四日には、辰己所長を陣頭に、全所員奮い汗の奉仕を行つた。即ち午前七時、甲賀郡水口、貴生川兩町界の野洲川に集合、

砂利篩
同畚小運搬　經濟課、兵事更生課、土木課
同リヤカー運搬——總務課
除　草——各課女子

右の如く擔當を定めた。就中、畚の小運搬は能率的ではないのであるが、時局下リヤカーは一種の貴重品であるため、川原に挽き入れる時は傷損の虞れがあるから、畚を使用したのである。而して之をリヤカーに積み府縣道水口長野線に運搬配置したのである。

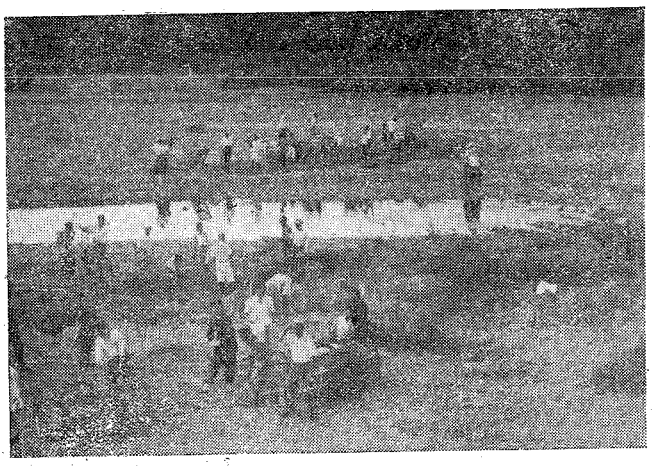
三　結　語

近時鐵道運輸の輻輳を常に耳にするのであるが、一面から見れば强いて輻輳させてゐる觀がないでもない。即ち、貨車にトラックを積載して運行してゐることである。之に依る輸送力の損失は實に夥しいものである。假に貨車の積載量を十瓲とし、トラックのそれを四瓲とせば、兩者合計十四瓲の輸送力がある譯である。ところが、貨車がトラックを積んで走る場合になると、その輸送力は全然皆無となる。何物も運ばなかつたことになるのである。而も其の貨車が引返すのを見ると、多くの場合空車で引つぱられてゐる。之では輻輳するのが當然であると考へられる。

鐵道運輸輻輳の緩和を圖るには、どうしても、道路を活用しなければならない、それには燃料、自動車保有量等の關係のあることは言ふまでもないが、往々、道路の存在を忘れたのではあるまいか、と危惧の念を起させる場合がある。

次に勞力の問題であるが、現在誰でも勞力の不足を口にし、從つて耳にもする。然しよく考へて見ると、餘りにも手近に勞力があり餘つて溢れてゐることに氣付き驚かされるのである。

買物行列が即ちそれであつて、此の勞力の浪費は、實に莫大なものである。今假りに毎日主婦が行列のために空費する時間を一時間とせば、全國の主婦が毎日空費する時間は、約二千萬時間とな



取　採　利　砂

り、一日の働く時間を八時間と假定すると、驚くなかれ毎日二百五十萬人と言ふ尨大なる勞力を空費してゐることになる。尚これは一日一時間の浪費の場合であるが、事實買物行列に空費する時間は、二、三時間も要する場合が多いやうであるから、更に驚ぐべき勞力が遊んでゐるのであつて、此の勞力の萬分の一でもよいから、河川愛護に道路愛護に協力して欲しいと思ふのである。尚此の勞力を、生産擴充に、其の他必要なる各方面に活用することを得たならば、不足の聲は忽ち消滅するのではあるまいか。

（一七・九・二〇）

砂利篩（右筆者、長所巳辰は左）

土岐善麿

じめじめとこのぬかるみのくらやみに
　人間住めり何にも知らず

めづらしくこの冬ぞらのほのぼのと
　いまだあかるき家にかへりつ

佇みてゐはがきを書けば四五人の
　顔がのぞくかな朝鮮に來し

すとうぶのぬくみの膝に消えやらぬ
　たそがれの街をかくてかへるなり

遠く來てこの千二百三十四呎の地下の
　うすあかりに歩むなりわれは